

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100147		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	宮崎県宮崎市新別府町前浜1401-259		
自己評価作成日	平成26年1月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kanistrue&jigyosyoCd=4590100147-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは市街地郊外の静かな一角に位置し、グループホーム目的で建設された機能的で安全重視の家庭的な雰囲気の家屋である。大型ショッピングセンターや神社・喫茶店等が近くにあり、市民の憩いの場である森林公園が散歩コースにもなっている。同敷地内に有料老人ホーム、道路を挟んでグループホーム2番館を建設しており、利用者様同士の交流もある。職員は経験豊富で、理念に沿ったケアを提供することが出来るように日々努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念として「優しいまなざし・穏やかな言葉・にこやかな笑顔」を掲げており、職員は常に業務優先ではなく、利用者の思いに沿ったケアの提供をするにはどうしたらいいのかに常に考え続けている。運営推進会議を意義のある会にするために、家族参加の必要性を説明することで、参加につながっている。また、民生委員から、地元の避難場所の情報提供をもらうなど有意義な会になっている。食事については、同法人施設からの配食から、ホーム内の調理へ昨年の9月より変更している。料理をする音やにおいの効果・利用者と一緒に献立を考えることや利用者と一緒に味わう大切さを大事にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に職員で唱和を行い、実践している	現在の理念は、同法人の理念を掲げており、ホーム独自の理念としてどうあるべきかの話し合いがなされていない。理念をリビングなどに掲げ、毎朝唱和する機会はあるが、ミーティング等で理念について振り返る機会が少ない。	地域密着型サービスとして、グループホームクローバーの理念がどうあるべきかを、引き続き検討してほしい。また、常に理念に基づいたケアを提供しているか、振り返る機会を作してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、毎月地域の情報が得られている。また、回覧板を回覧する際、利用者様と一緒に隣まで持って行き、交流している	住宅地より少し離れた場所にホームはあるが、回覧板や散歩を利用しての交流を図っている。近所から、差し入れや花の苗を頂くこともあり、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地域貢献の話が出ているが、未だ具体的に出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員・地域包括支援センターの職員・福祉協力員・家族の出席を頂き、意見交換を行いながら、利用者様のケアに活かすことが出来るようにしている	以前は、運営推進会議に家族の参加がほとんどなかったが、一人ひとりに家族参加の必要性を説明し、参加につながっている。運営推進会議で、民生委員から、地元の避難場所の情報提供も頂けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者出席して頂き、市からの情報を頂きながら、ご意見・ご協力をいただくようにしている	市の担当者には、行政上の報告や運営上の相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを基本にしている。研修会に参加し、ホームで勉強会を行い、正しく理解できるようにしている。玄関の施錠については、職員が開閉を行っている。一人の利用者様がストレスに感じていると思われる	玄関の鍵は常にかかっており、そのつど職員が開閉の対応している。ホーム内にいることに対し不安症状がみられ、常に外出しようとする利用者に対し、利用者の生活歴等を検討し、不安症状を改善するためにはどのように対応したらいいか検討している。	身体拘束の弊害は理解しており、現在、利用者の不安に対しどのように向き合うか検討しているが、今一歩取り組むところまでできていない。是非、利用者の安全と安心をもう一度職員全員で話し合い、ケアにつなげてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加・毎月の勉強会に、虐待についての話し合いを行い、虐待についての理解と防止に努めている		

宮崎県宮崎市 グループホームクローバー

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の全体研修で「法令遵守について」という課題で発表を行った。権利擁護の制度について具体的な動きはないが、少し職員の意識が変化したと感じている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項の説明を行い、納得して頂いてから契約書を取り交わしている。2部作成し、家族と施設で1部ずつ保管している。また、解約時には家族と今後の事を十分検討している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置して、何時でもご意見が頂けるようにしている。家族の面会時・カンファレンス時などに利用者・家族の意見・要望等が言いやすい環境を作れるようにしている	家族会としてはないが、春の遠足や夏祭り・敬老会やクリスマス会などの年間行事を設け、家族も参加してもらい、要望や意見を聞く機会を作っている。また、面会時やケアプランの検討会の際にも、利用者や家族の意見を引き出す機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は毎日の申し送り時で話を聞き、職員全体で把握できるように連絡ノートを使用している。月1回の管理者会議に話を持っていき、運営に反映されている	毎月、職員会議やケア会議を行い、職員体制が難しい中で、どう工夫すれば業務優先ではなく利用者に沿ったケアに結びつけられるかを検討している。会議の中で話し合った内容は、月に1回の管理者会議で運営者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年9月から調理をして食事を提供するようになってから、職員は食事作りに翻弄されている。今後、改善していく必要がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会等に職員が参加できる体制を作っている。外部研修での報告の内容は、職員全員が把握できるように月1回の勉強会で発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し、同業者との意見交換・交流を行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から得られる情報・家族の思いを初回面談から受け止め、安心して生活がスタートできるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることを聞き、家族の思いを受け止め、要望を聞きながら安心してサービスが開始できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望・ご本人の情報をくみ取り、アセスメントをしっかり行い、サービス担当者会議で話し合いをしっかりと行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、利用者とともに過ごしていくとの関係を大事にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・サービス担当者会議の際に本人の状況を説明し、緊急の場合は電話で報告しながら本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人以外の親せきや知人の面会には、本人とゆっくり会話ができるように配慮している。また、気軽に来訪して頂けるよう、職員一同努力している	友人の来訪を大切にし、関係継続の支援に努めている。不安症状が強い利用者には、その利用者が落ち着ける場所や人はどこかを、家族を含め検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大事にしながら、心身の状況を把握して、全員で支えあえるような関係作りを支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や家族の方からの相談は、随時対応している。入院された場合には御見舞に行き、状況を把握できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、日々の関わりの中から状況を把握できるように努力している。また、家族からの聞き取りの中で、その人らしい生活ができるようにもしている	本人や家族との会話の中で、昔の好みや生活習慣を把握するよう努めている。日ごろの会話や行動により、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方を継続して支援していくために、家族からの聞き取り・本人の状況を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来ること」「出来ないこと」を把握し、出来ることが維持できるように、現状維持が出来るように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態・生活の様子を毎日の記録や職員の話し合いの中で検討し、家族の了解を得てケアプランを作成している	本人、家族、担当職員、作成者で話し合いを持ち、介護計画を作成している。いつ記録を見ても介護計画に沿ったケアの毎月の評価がわかるような介護記録になっている。状況の変化に対応して、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や日々の記録・ケース記録・バイタルチェック・食事・排泄の情報を共有して、サービスの見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況確認、家族との面談を行いながら、その時々ニーズを見出し、サービスの提供に取り組んでいる		

宮崎県宮崎市 グループホームクローバー

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会・クリスマス会等にボランティアの方による歌や踊りを披露して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はわたようクリニックである。2週間に1回往診して頂き、家族に状況を報告している。訪問看護師との連携も24時間行っており、協力体制を構築している	掛かりつけ医を尊重し、入居後も継続できるように支援している。家族による受診の際は、詳細な記録が記された文書を家族を通して主治医に渡している。利用者の状況に合わせて医師と連携を図り、内服薬の減量に取り組む際は、詳細に日ごろの様子を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ事業所の看護師に相談したり、訪問看護師との連携を図り、利用者の健康管理を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、情報提供書にて情報の提供を行い、安心して過ごせるように支援している。随時病状確認を行い、退院後のケアについても相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医との連携により重度化・終末期の対応を行っている。終末期の家族の意見が聞かれている利用者は2名である。	医療機関や訪問看護と連携し、重度化や終末期ケアに取り組む方向で検討しているが、職員全員で看取りの支援についての体制づくりの検討は行えていない。	看取りのケアで予測されることやそれに関連しての職員の思いを引き出し、研修や実地訓練を行い、必要な環境整備に取り組んでほしい。本人や家族には、ホームでできること、できないことを機会あるごとに家族に説明し、話し合う機会を作ることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット等を書くことで、利用者の変化に気づくことが出来、そのことを職員全員が周知徹底することで対策に繋げている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自事業所3施設合同の消火訓練・避難訓練を行っている。地域の防災訓練、津波避難訓練にも参加・訓練を行っている	同法人合同での避難訓練は行っているが、ホーム独自の避難訓練は行えていない。また、以前一緒に協力を求めていた地域の消防団との訓練も継続できていない。	ホーム独自の夜間を想定した避難訓練や津波訓練などに取り組む機会を作ってほしい。また、民生委員より情報を頂いた地域の避難所に行き、利用者が避難できる環境かなど検討し、安全確保につなげていくことを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳あるケアを目指して、職員はスキルアップする努力をしている。利用者様に対する声かけ・記録についても、プライバシーを考えた対応を行っている	他の業務についている場合でも、利用者から声をかけられたらきちんと向き合う姿勢を心がけている。今回の外部評価の際も、利用者の同じ言動が数回聞かれても、きちんと対応する姿勢がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自分の思いを気兼ねなく表出できるような雰囲気づくりをし、一人ひとりにあった説明・声かけを行い、自己決定を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭の延長・継続というホームの方針で、一人ひとりの状況に合わせ、その日・その時の希望に沿った過ごし方を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、理・美容の業者の方の訪問がある。利用者のご希望・要望により行っている。整髪・ひげそりは声かけにより自分で行えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事を作り提供している。調理の下準備・下膳・台ふき・御茶碗洗い等、出来る事の支援をしている	同法人施設の配食から、ホーム内で調理をすることを昨年の9月より変更し行っている。料理する音やにおいの効果・利用者と一緒に献立を考えることや利用者と一緒に味わう大切さを大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作っているため、専門的な食事は作れない。病気の為に指示食が必要であれば、有料の施設の給食にお願いしている。献立は担当職員が考え、主菜は肉と魚を交互に提供する支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・うがいを行い、口腔ケアには気をつけている。自分で出来る方には声かけを行い、義歯の方は夜間帯は洗浄剤を使用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について意思表示出来ない利用者様は声かけを行い、トイレ誘導を行っている。排泄パターンを把握して、失禁が少なくなるように支援している	一人ひとりにあった排せつパターンを把握し、トイレでの排せつにつなげるよう取り組んでいる。はくパンツから布パンツへと取り組んだり、放尿される方対応として、鳥居が書いてある紙を貼るなどして、トイレで排せつができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に便秘の日数を書き込み、各個人に合った排泄パターンから、服薬・運動・水分を考えた支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、利用者様一人ひとりの入浴希望に応じて午前と午後に入浴を行っている。入浴をためらう利用者様も声かけに細心の配慮を行い、汗や汚染時には状況に応じて入浴支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、汚染時や希望に応じ柔軟に対応している。入浴拒否がある方に対しては、拒否される理由を考え、それに沿って声をかけ、入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活パターンに合った支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に対して、職員全員が目的・用量・副作用について共通理解をして服薬支援を行っている。主治医との連携を図り、確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ・気分転換が出来るように、本人の状況に合わせて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くには神社・公園・ショッピングセンターがあり、本人の希望で支援を行っている。季節に応じてドライブ・遠足・花見等を行い、定期的に外出支援している	利用者全員での外出もあるが、1対1での外出の支援も心がけている。不穏が強い場合は、近くにある同法人の施設と一緒に訪問したり、ホーム周囲の散歩をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かったお金は職員が管理している。外出の際、本人の希望により使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行えるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天井が高く、広々しており日当たりも良い。大きな窓越しには人・車の往来、川、草花が見渡せる。落ち着いた環境にある。利用者にとって混乱を招くような刺激もない。ゆったりとソファが置かれ、ゆっくりと過ごせるスペースになっている	温度管理を行い、採光や音量も適切になるように配慮している。利用者の作品も掲示し、居心地のよい共用空間づくりに努めている。共有スペースには、ゆったり座れる一人用のソファや、数人掛けのソファが準備され、ゆっくりくつろげる家具が準備されている。雑誌も、利用者が手に取って見れるように準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考え、多人数のグループにならないように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれが椅子やタンス・テレビ・馴染みのものを満ち込んで頂いて、心地よく過ごせる居室になっている	居室にテレビや家具を持ち込み、それぞれ利用者に合わせた居室作りがなされている。家族から職員に対しての思いを綴った手紙も貼られており、家族の思いも大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、事務室と共用スペースを中心に居室が配置されています。廊下には手すりがあり、共用トイレが3か所設置されていて自立されている方は遠いトイレを使用し、介助が必要な方は近いトイレに介助しています		